

ラボ員（全員兼務）

常勤職員等：21名

玄地 裕、Steven Kraines、門奈 哲也、塚原 建一郎、森本 慎一郎、
畑山 博樹、本田 智則、Chun Yoon-Young、羽鳥 浩章、増井 慶次郎、
松本 光崇、花岡 寿明、藤本 真司、佐藤 賀一、西 哲夫、楊川 翠、
一杉 佑貴、小林 謙介（客員）、醍醐 市朗（客員）、中野 勝行（客員）

契約・派遣職員：20名

ラボ長：田原 聖隆
つくば西事業所



□ラボの概要

2017年4月に安全科学研究部門にIDEAラボを設立しました。ラボは呼称であり、研究プロジェクトメンバーを中心に組織横断的に研究を実施しています。安全科学研究部門以外も含む研究員21名、契約・派遣職員20名です。IDEAラボのミッションは、IDEA(Inventory Database for Environmental Analysis)の開発および維持、国内外の連携、技術評価の実施と方法論の確立です。ラボは上記ミッションを達成すべく、IDEAの維持管理と国内外の連携を担う維持管理チーム、新たなデータベース開発や技術評価手法開発を担う手法開発チームの2チームで運営しております。IDEAラボから公開しているインベントリデータベース（IDEAv3.3）は、日本国内の全ての事業における経済活動を網羅的にカバーした5,000以上の製品やサービスのプロセスからなり国内最大を誇っております。このデータベースを持続的に産業界・研究開発現場へ提供するために、「LCA活用推進コンソーシアム」を活用し、持続可能な社会実現に向けて、LCAを活用し環境負荷削減に貢献できるシステムの構築を目指して行きます。

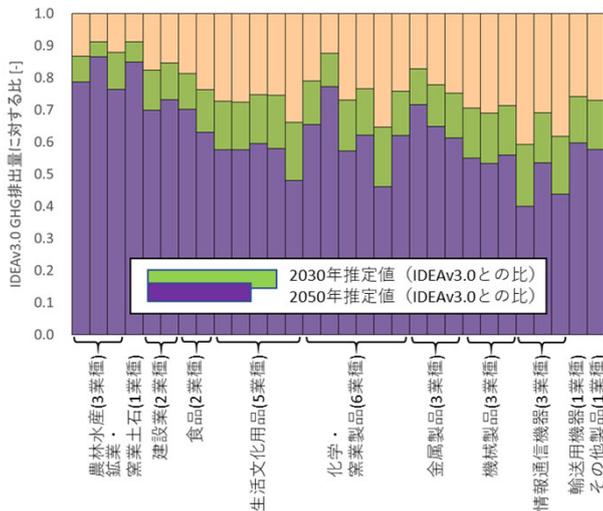
□IDEAラボの研究内容

インベントリデータベースIDEAの開発

IDEAは網羅性、代表性、完全性、透明性を担保できるように開発を進められております。特に網羅性に関しては、日本国内の全ての事業における経済活動をカバーし作成しています。また、データは統計をベースに作られているため、日本の平均的な製造方法やサービスのデータとなっており、代表性を確保しています。

将来インベントリデータベースの整備

将来の2050年カーボンニュートラル達成に向けた技術開発が盛んに実施されています。開発された技術がどの程度温室効果ガスの排出量を削減できるかを、定量的に算定することが強く求められています。その算定に必要なインベントリデータベースを構築するため、IDEAの時間的拡張を実施しています。様々な将来シナリオを用いて2050年までのインベントリデータベースを構築しています。これらのデータベースにより、より精緻な将来技術評価が可能となります。



各産業のGHG排出量の変化
(電源構成としてIEAシナリオSDSを用いた場合)

LCA活用推進コンソーシアムの設置

- 適切な評価実施のためのサービス、並びに見える化を支える最新の「IDEA」の維持・管理を行います。
- これまでに有してきた経験・知見を活かした、データベースを用いた評価ツールの開発・推進を行います。
- 持続可能な社会実現に向けて、様々な企業がLCAを活用しGHG排出量等の環境負荷削減に貢献できるシステムの構築を実施していきます。
- 会員向け講習会、講演会などを実施してLCAのスキルの向上を目指して行きます。

持続可能な企業経営の実現へ



■ 国立研究開発法人産業技術総合研究所
安全科学研究部門 LCA活用推進コンソーシアム
事務局 担当：門奈、田原
Email : lca-consortium-ml@aist.go.jp
https://riss.aist.go.jp/lca-consortium/